

未来構想方式 第1日程

【課題】

みなさんは、今、2040年2月17日の日本にいます。以下の課題文は、日本のある地域の1970年代から2040年までの歴史的な変遷を記しています。図表を参照しながら課題文を読み、設問に答えなさい。

[メモ欄]

[未来市の概要]

未来市は、札幌市の中心部から高速道路を使って車で約90分、新千歳空港からは約60分の北海道中部の山あいの地域にある。市の90%は森林で、市内を流れる未来川は美しい渓谷を刻んでいる。年平均気温は6度。8月の平均気温は20度で、夏も湿気が少なくカラッと爽やかに過ごしやすい。冬は、北海道の中でも積雪量が多く、積雪が150cm以上になることも少なくない。

[未来市の歴史]

1950 年代

1951 年、未来川流域に石炭鉱脈が発見され、「黒ダイヤ」と呼ばれる良質な原料炭が採掘された。国は火力発電や鉄鋼の製造に必要な石炭産業を育成すべく、未来市と石炭採掘事業者に補助金を支給した。補助金により、石炭を運ぶために鉄道が敷かれ、道路が整備された。炭鉱夫は、落盤事故などの危険と隣り合わせではあったが、高給であった。そのため、炭鉱で働くために数多くの若者が未来市に集まってきた。市の人口は急速に増え、商店街ができ、主に冬の娯楽として映画館が数多く建てられた。未来市は「炭鉱の町」として順調に発展していった。1959 年には市の北部にダムも完成し、水力発電が開始された。市民には、日本のエネルギーを支えているのは未来市であるという自負があった。

1960 年代

未来市は、四方を山に囲まれ、広い農地を確保しにくく、農業が盛んな地域ではなかった。ところが、1961 年、市役所の農業振興課の職員が、農家が自宅用に栽培していたメロンに注目したことから未来市の農業は大きく変わった。このメロンは、甘みは少ないが、芳醇な香りが特徴で、赤い果肉は、数多く流通する青い果実のメロンと一線を画していた。それから品種改良に取り組み、1968 年、ジューシーでとろけるような甘みの新品種のメロンが完成した。市はそれを「みらいメロン」と名付け、高級メロンとして売り出すことにした。重さや糖度などに基準を設け、

[メモ欄]

その基準をクリアしたメロンだけが「みらいメロン」と名乗ることができた。品質にこだわったお陰で、「みらいメロン」は高級メロンとして全国的に有名になり、未来市は「メロンの町」として有名になった。

1970 年代

未来市がメロンの品種改良とブランド化に注力している間に、日本のエネルギーの中心は石炭から石油に移っていた。1973年には日本の一次エネルギー(石炭、石油、天然ガスなど自然から直接採取できるエネルギーのこと)の約75%を石油が占めるようになった。同年、第四次中東戦争を契機に発生した石油ショックにより、政府は石油依存度を低減するため、原子力や石炭などの活用を推進する方針を掲げた。しかし、石炭については海外の安い石炭に注目が集まり、海外から石炭が大量に輸入されるようになった。その影響を受けて、未来市の石炭産業は急速に衰えていった。1974年、ついに未来市の主要な炭鉱の一つが閉山した。以降、せきを切ったように閉山があいついだ。炭鉱夫らは閉山に反対したが、時代の流れに逆らうことはできなかった。炭鉱夫とその家族は次の仕事を求めて未来市を後にした。1978年、未来市の人口が減少に転じた。

1980 年代

市は、人口減少を食い止めるため新たな産業の育成に努め、「炭鉱から観光へ」のスローガンのもと観光業に力を入れた。市は地方債を発行して(いわば借金をして)、日本の発展を支えてきた石炭産業の歴史を伝える「石炭博物館」、大型観覧車をシンボルとした遊園地「みらいアドベンチャーランド」、地形を活かした「みらいスキー場」

を次々と建設していった。「みらいスキー場」は、バブル景気を背景にしたスキーブームの波に乗って大人気となり、若いスキー客が街に溢れ、大型のリゾートホテルも建設された。未来市の職員たちは観光業への転換に大きな手応えを感じていた。加えて、1987年、「みらいスキー場」を舞台にした映画が大ヒットして、「みらいスキー場」は全国に名が知られるようになった。

1990年代

未来市には、炭鉱夫が多くいた頃に建てられたレトロな映画館がいくつも残っていた。そこで、市はこの地域資源を活かして映画祭を開催することにした。各映画館で異なる作品を上映し、観客が会場間を移動する際に地域の自然や文化に触れてもらおうと考えた。1991年、第1回「みらい映画祭」が開催され、1987年にヒットした「みらいスキー場」を舞台にした映画も上映された。映画祭は毎年開催され、「みらいメロン」を使ったスイーツを提供するカフェが増えるなど、街は再び活気を取り戻した。市は「映画のまち、未来市」と銘打って積極的に宣伝活動を行った。当時、映画祭を中心とした地域活性化の取組みは全国でも珍しく、メディアに取り上げられることも多く、他の自治体からも数多くの視察が訪れた。

2000年代

未来市の成功を参考に、各地で盛んに映画祭が開催されるようになった。北海道でも札幌や函館など人気の観光地が映画祭を開催するようになり、「みらい映画祭」の観客動員数は徐々に減少していった。市は、昭和レトロを

売りにした映画祭のアピールに努めたが、「みらい映画祭」に繰り返し訪れてくれる観光客は少なく、観客動員数の減少に歯止めがかからなかった。

バブル崩壊とともにスキーブームも去り、「みらいスキー場」の利用者数は減少傾向にあった。これまで「みらいスキー場」を訪れていた利用客は、より大規模な、施設の充実したスキー場を選ぶようになっていた。市は、スキー産業が衰退すると地域の経済や雇用に与える影響が大きいとして、特別会計を編成して2001年に子ども向け遊具を配置したキッズパーク、2005年にスノーボード向けのスノーパークを開設した。しかし、「みらいスキー場」が、小規模なスキー場であることに変わりはなく、施設を拡充しても利用者数の減少を止めることはできなかった。

2010年代

未来市のスキー場と映画祭を中心にした観光振興は行き詰っていた。スキーシーズンと映画祭の開催期間以外に、未来市を訪れる観光客はごくわずかだった。観光客をターゲットにしていた宿泊施設や飲食店、カフェなどの廃業があいついだ。観光業に携わっていた若者は働く場所を失い、市を離れていった。

「みらいスキー場」や「みらいアドベンチャーランド」の設備(リフト、アトラクションなど)は老朽化が進み、改修が必要な時期が迫っていた。しかし、かつて炭鉱の町として繁栄した未来市も、観光施設や映画祭への過剰な投資により、地方債などの債務(借金)が重くのしかかり、財政がひっ迫していた。市議会は、2012年、「石炭博物館」の閉館、「みらいアドベンチャーランド」の閉園を決めた。市は財政再建策として市職員の給与削減を実施し、市民

税・固定資産税、下水道使用料を引き上げた。市は急速に活力を失っていき、2010年から2020年の10年間で人口が3割以上減少した。

2020年代

2020年1月、日本国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認された。その後、感染は拡大し、緊急事態宣言による行動制限により観光業は深刻な打撃を受けた。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、市は2021年、映画祭の継続を断念した。市の財政的な事情に加え、人口減少と新型コロナウイルス感染症の影響で街の映画館が次々と閉館し、映画祭の会場の確保が難しくなったのが原因だった。「みらいスキー場」はコロナ禍における休業が響き、経営はさらに悪化した。2021年、市は民間のリゾート運営会社に「みらいスキー場」を売却することを決めた。リゾート運営会社は、2023年1月にスキー場の運営を再開したが、2025年に営業を停止した。かつて未来市の観光の中心であったみらいスキー場は、荒廃した施設と雑草に覆われ、かつての輝きは見えない影もなかった。

2030年代

未来市は、少子高齢化が進み、最盛期には10万以上いた市の人口は3万人を下回った。市は、最後の望みをかけて「みらいメロン」の生産と販売に改めて力を入れた。「みらいメロン」の栽培農家も高齢化が進み、後継者不足に悩んでいた。市は、スマート農業(ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業)を推進し、生産性の向

[メモ欄]

上と農作業の負担軽減をはかり、若者の新規就農者を獲得しようとした。すぐに大手 IT 企業が協力を申し出てくれたが、未来市のメロン農家は高齢化が進み、また、小規模で資金力に乏しく、スマート農業に必要な機器の購入をためらう農家が多く、計画は頓挫した。一方、販売では海外への輸出、特に中国向け輸出に力を入れた。しかし、中国で「みらいメロン」のおいしさが評判になると、日本から無断で持ち出された種や苗木をもとに中国で栽培された未来市が認証していない「みらいメロン」が出回り、その対応に追われ、輸出量は思ったように伸びなかった。

2040年2月17日の状況

未来市は人口減少、高齢化に苦しんでいる。人口が1万人近くまで減少した市の産業は限られ、都市部への人口流出は止まらない。市内のスーパーマーケットは1軒だけになってしまった。小中学校は統合され、高校進学を機に家族で未来市を後にする家族も増えている。朽ち果てたホテルや旅館、映画館、メロンの販売所が点在し、「映画のまち、未来市」と書かれた看板は傾いている。

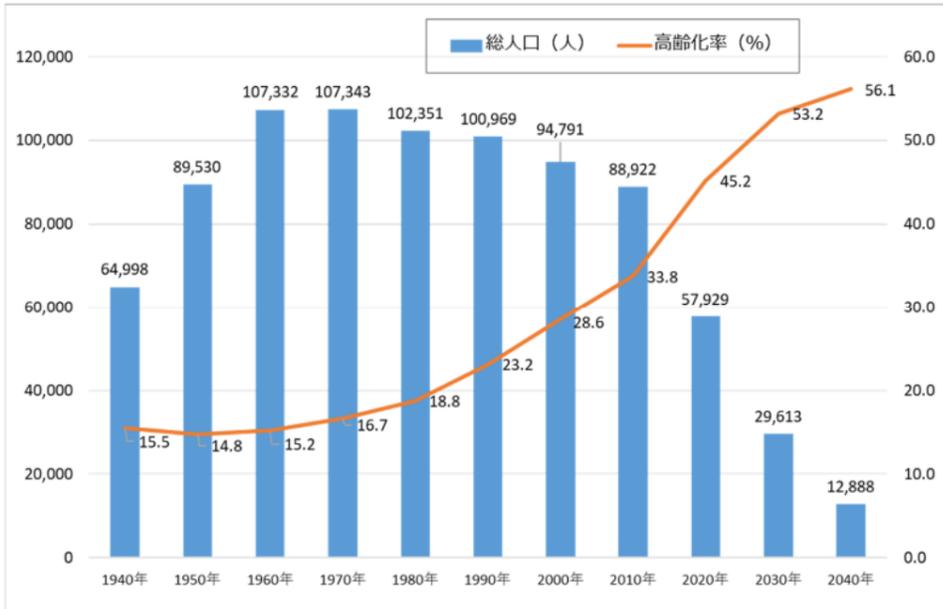
未来市にはたくさんの魅力と資源があったはずである。未来市は、なぜこのような状況に陥ってしまったのだろうか。いつどのような策を講じておけば、このような事態になることを避けることができたのだろうか。市民は、すっかり活力を失った街の姿を眺めながら、これまで市が歩んできた歴史に思いを巡らせていた。

【設問】

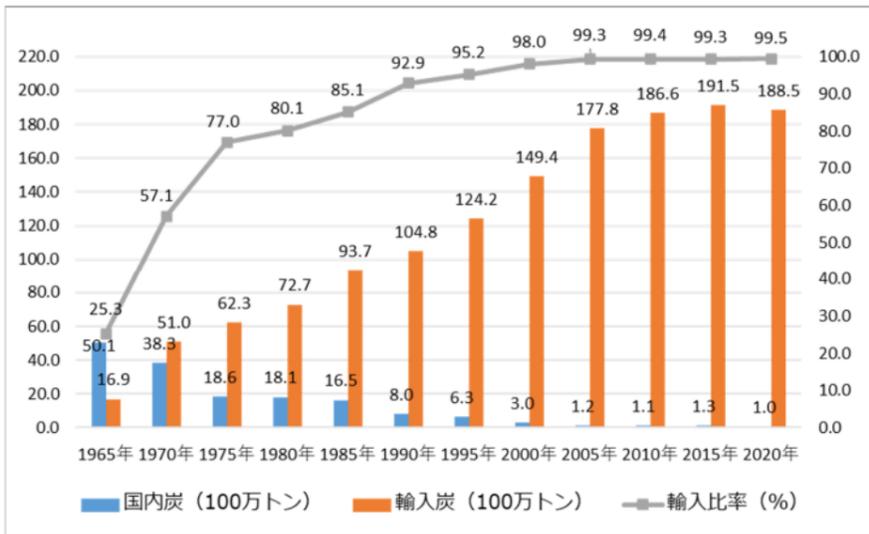
- 問1. 未来市は、2040年に存続の危機ともいえるような状況に陥ってしまいました。なぜ未来市はこのような状況に陥ってしまったのでしょうか。何がいけなかったのか(衰退原因)。あなたの考えを書きなさい。なお、衰退原因を複数指摘しても構いません。
- 問2. いつ、誰が、どのような施策を講じておけば、未来市の衰退を止めることができたと思いますか(地域活性化策)。あなたの考えを書きなさい。なお、時期や主体、取り組み内容が異なる複数の施策を提示しても構いません。
- 問3. 上記問2であなたが提示した施策を実行した場合、2040年の未来市はどのようなになっていたと思いますか(施策の効果)。市の人口や産業、住民の生活、環境などについて幅広く検討して記述しなさい。

未来市の統計データ

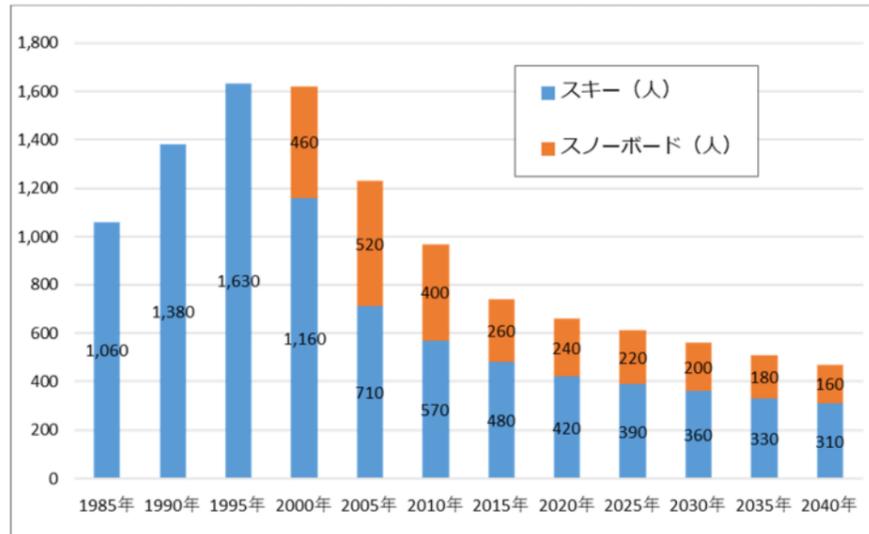
【図表 1】 未来市の総人口・高齢化率の推移



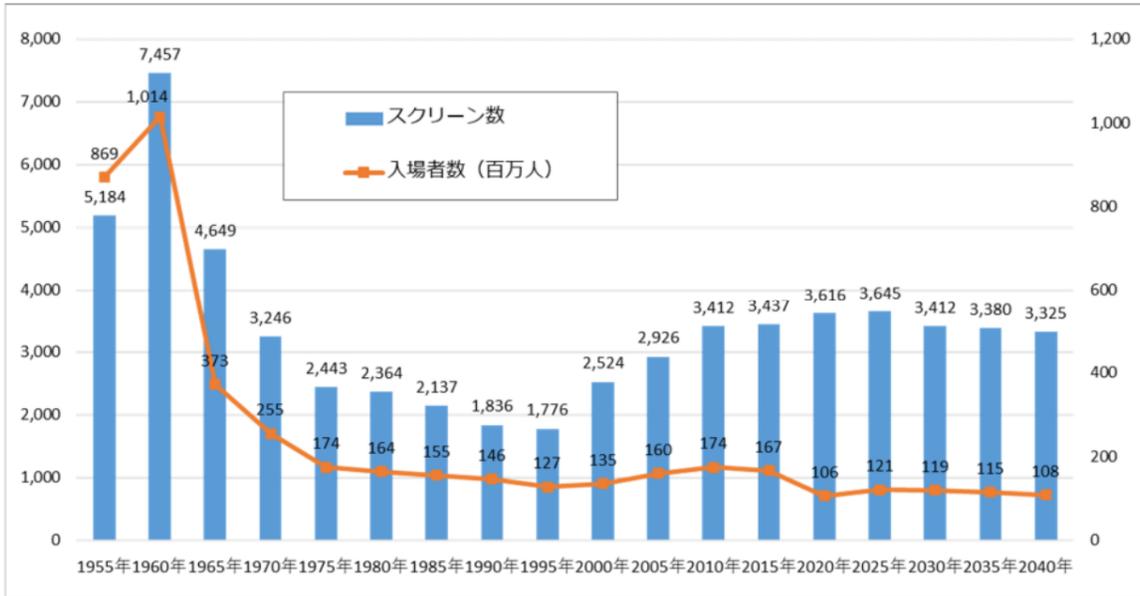
【図表 2】 全国の国内炭・輸入炭供給量、輸入比率の推移



【図表 3】 全国のスキー・スノーボード人口の推移



【図表 4】 全国の映画スクリーン数・入場者数



【図表 5】 みらいメロンの作付面積・出荷量

